

平成二十七年六月に公職選挙法等の一部が改正され、選挙権が十八歳以上に引き下げられました。今、高齢の方の投票率が五十パーセントを超えていることに対して若者の投票率が約四十パーセントであり若者の投票率の低さが問題となっています。しかし、私は法律改正後初めての平成二十八年七月に行われた第二十四回参議院議員通常選挙において初めて投票をしました。

私が投票しようと思ったきっかけは、家族です。両親がかかさずに選挙に行っており、自然と行くことが当たり前という意識がありました。

また、選挙前には家族と政治に関する話をすることがあり、少し政治に興味を持つことができました。そのようなことがあり、投票するのかもしれないかを迷うことなく選挙に行きました。

実際に投票場に行ってみると、やはり緊張しました。学校の生徒会で模擬選挙をやっていたり、選挙について詳しい説明会があったりして安心していましたが、実際に行ってみると空気感が全然違ってとまどいがありました。私は、親と一緒にいったおかげで真似をすることができましたが、一人だけでは行きづらい場所だなと思いました。私は、ニュースを見たり新聞を読んだりすることが少ないため、どの政党がどのような考え方をしているのか全く分からずに投票をしてしまいました。投票する前には候補者や政党がどのような考え方をしているのかどのようなマニフェストを掲げているのかなどの情報を仕入れておくことがとても大切なことだなと感じました。周りの人たちに選挙について聞いてみると、政治のことは分からないから行かないという意見やめんどうだからという理由で行かないという人が多かったです。若者の投票率の低さを改善するために、もっとメディアで取り上げたり、ネット投票を採用してみるといった対策をしていく必要があると考えます。若者の意見が政治に反映されていけば良いなと思います。

実際に選挙に行き、自分の政治に関する知識の少なさに驚きました。もっと政治に興味を持ち、それぞれの政党や候補者の違いを知って投票に積極的に参加していきたいです。